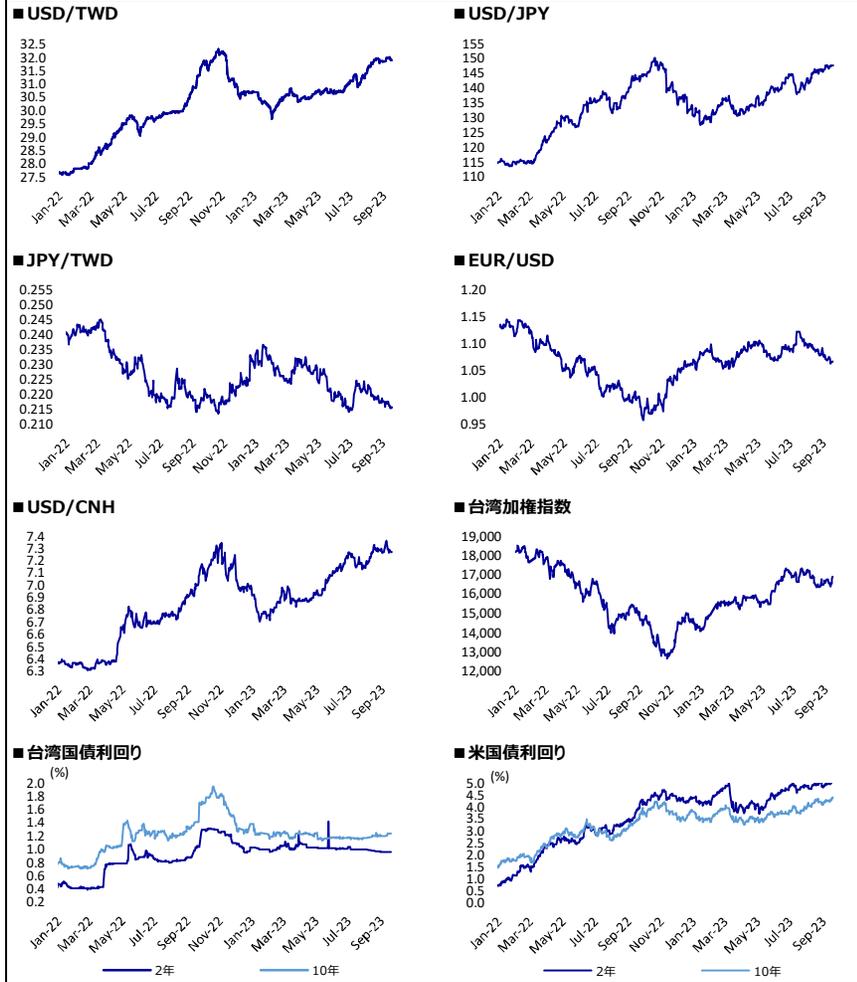


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初9/11は32.020でオープン後、台湾株が軟調に推移する中、台湾ドルは売られ、32.069まで上昇。しかし、中国当局が人民元相場安定について言及すると人民元は大きく反発し、台湾ドルも買いが優勢となり、32台を割り込んだ。9/12は前日の流れから31.9台半ばまで下落すると、輸入企業のドル買いが入り、32台に戻し、外資の流出も相まって、32.04付近で推移した。9/13は翌日に米8月CPIの発表を控え、レンジで推移していたが、人民元が上昇すると台湾ドルも買われ、31.9台半ばまで下落。9/14は前日の米8月CPIの結果を受けて9月のFOMCでの利上げ期待が後退するとアジア株が全面高となる中、台湾株高台湾ドル高の流れとなり、一時31.857をつけたものの、底値では輸入企業のドル買いも入り、31.9台前半まで戻した。9/15は台湾株が上昇したものの、一部で海外への送金があり、31.9台後半に上昇するも人民元高や輸出企業等のドル売りから上値は押さえられ、最終的には先週比0.2%ドル安台湾ドル高の31.928で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は204.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落するもその後は上昇。週初9/11は先週末の植田総裁のインタビュー記事を受けて金融政策修正への思惑が強まり、146.95でオープン後、人民元買い・ドル売りも材料に一時145.91まで下落。しかし、米金利の上昇もあり、146円台半ばに戻した。9/12は短期ゾーンを中心に米金利が上昇したことを材料に147円台前半で推移。9/13は注目の米8月CPIが発表されると、コアCPI(前月比)が予想を上回り、買いで反応し、147円後半まで上昇。しかし、前年比では前月より低下したため、米インフれ鈍化傾向の思惑から米長期金利が低下するとドル円の上値は重く、147円台半ばで推移。9/14は前日に続き、米金利の低下を受けて、147円前半まで下落するも、米8月小売売上高や米8月PPIの強い結果が材料視され、147円台半ばに戻した。9/15は来週にFOMC、BOJを控える中、レンジで推移していたが、米金利の上昇を受けて一時147.95まで上昇。その後、米9月ミシガン大消費者信頼感指数が予想を下回ることでドル売りに反応し、147円台半ばに戻したが、ドル円の底値は堅く、引けにかけては147円後半で推移。最終的には先週比変わらずの147.84で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.800-32.100
今週はレンジでの推移を見込む。FOMCが予定されているが、据え置きが見込まれており、ドル台湾ドルの上値は限定的となるであろう。ただし、予想以上にタカ派な内容になれば、台湾ドルは売られやすいため、警戒はしたい。なお、台湾も金融政策決定会合が発表されるが、据え置き予想で為替相場への影響は限定的であろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：145.50-148.00
今週はFOMC、BOJと注目イベントを控えており、内容次第で大きく動くであろう。BOJについては、植田総裁の先週末のインタビュー記事を受けて政策変更期待が高まった際にはドル円は急落しており、植田総裁の会見の内容に注目したい。

今週の予定

9/18 (MON)	日本休場
9/19 (TUE)	米8月住宅着工・建設許可件数
9/20 (WED)	台湾8月輸出受注、FOMC
9/21 (THU)	台湾金融政策決定会合
9/22 (FRI)	台湾8月失業率、日銀金融政策決定会合

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。